

学校におけるユニバーサルデザイン

～教員の授業行動と、教室環境づくりから～

泉大津市立戎小学校 堀 友和

1. はじめに

本市においては、ここ数年、児童数が減少傾向にある。一方で、支援学級に在籍している児童の数や、通常学級に在籍しているものの、特別な支援を必要とする児童の数は、増加傾向にある。したがって、通常学級において、だれにとってもわかりやすい授業づくりの工夫が必要と考えられている。

本校では、2014年度、神戸親和女子大学の森田安徳先生をお招きして、アドバイスをいただいた。その中で、通常学級において、様々な課題を抱える児童の実態に応じた支援をするためには、大きく分けて、以下の3つの点が大切であるということであった。

- ①、だれにとってもわかりやすい教室環境づくり
- ②、だれにとってもわかりやすい授業づくり
- ③、だれにとってもわかりやすい学級経営

上に述べた3点は、“だれにとってもわかりやすい”という点で共通している。つまり、教室環境づくり、授業づくり、学級経営をユニバーサルデザイン化（以下UD化）することである。

UD化といっても、何も無いところからスタートするのではなく、先生方（特にベテランの先生方）がこれまでの経験を通して獲得したスキルを集約し、整理するようにした。つまり、どの先生にも、ベテランのスキルを身につけてもらうということを目指した。

2. 2014年度の取り組み

2014年度は、教室環境のUD化と、授業づくりのUD化に取り組んだ。

教室環境については、掲示物や子どもの理解を助けるシートなどについて、コンペ形式で出し合った。出てきたアイデアは、約140項目になった。それらを集め、本校で取り組まれている教室環境についての工夫を、5つのポイントにまとめた。そして、出てきた工夫を空き教室に集約し、その教室を戎小学校のモデルルームとして、次年度以降もいかにせるようにした。

次に、授業作りについては、“だれにとってもわかりやすい授業”について本校の教員で話し合い、KJ法でまとめた。職員から、約200の意見があり、それを25項目にまとめ、本校としてのチェックシートを作った。

また、3年目の教員の授業の様子をビデオで撮影し、授業行動についての改善点などを話し合った。授業行動とは、教員の立ち位置や、指示の仕方など、授業をする際の基本となる行動についてである。

2015年度は、2014年度、研究できなかった学級経営のUD化について研究を進める予定である。

3. 具体的な内容について

①教室環境について

先ほど述べた教室環境UDの5つのポイントについて、まず触れたい。教員から出てきた約140のアイデアを、分類し、以下の表にした。これが、教室環境のUDを考える上での、基になるものである。

教室環境UDの5つのポイント			
1 刺激の調整	視覚	聴覚	触覚
2 見通しを示す	手順	予定	めあて
3 理解を助ける	ヒント		
4 ものの管理	自分のもの	学級のもの	配付物・提出物
5 ルールを示す	授業	遊び	係り活動

左に示した1～5の項目が、教室環境を考える上での大切なポイントとなる。そして、それぞれのポイントの右に書いてある項目が、より細分化した内容項目となっている。

例えば、2、見通しを示すための内容として、“手順”“予定”“めあて”の3つを示している。

次に、5つの項目、それぞれについて、出されたアイデアを実際に作って活用した例と、モデルルームの様子について、紹介する。

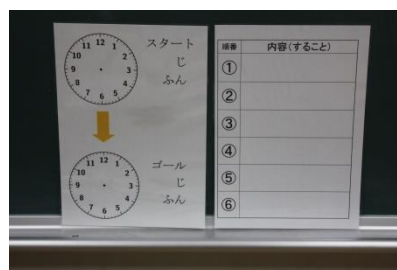
・ 1、刺激の調整（聴覚）

いすの足に、テニスボールをつけることで、いすを動かす時の音がかなり静かになる。音に敏感な児童に対して有効である。



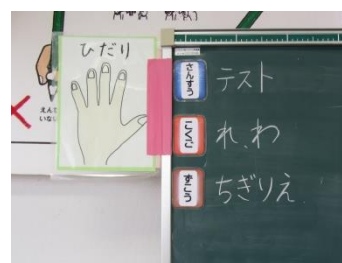
・ 2見通しを示す（手順・予定）

作業の内容（順番）と、終わりの時間を示すことで、見通しのたちにくい児童の助けになる。



・ 3、理解を助ける（ヒント）

右と左を示すシートを黒板に貼ることで、左右の区別がつきにくい児童の助けになる。



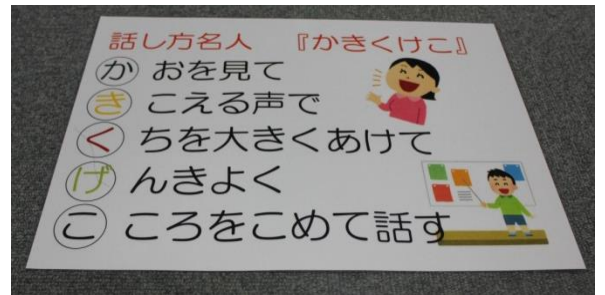
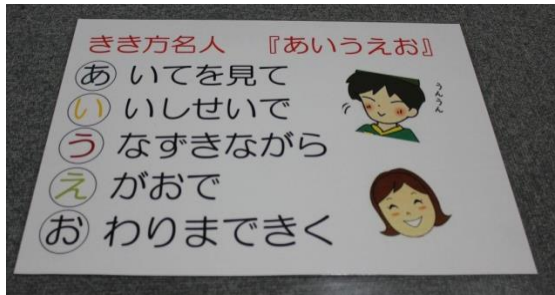
・ 4、ものの管理（自分のもの・学級のもの）

棚の整理の仕方の見本や、掃除道具の整理の仕方の見本のシートを貼ることで、片付けをする手助けとなる。

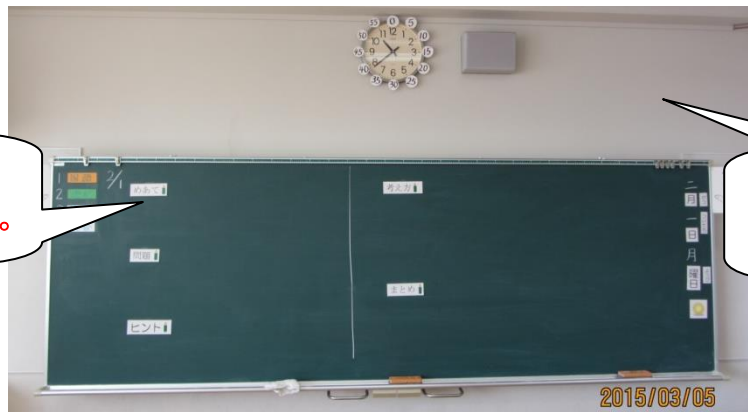


・ 5、ルールを示す（授業）

話し方、聞き方のルールを、視覚的に示すことで、ルールの徹底を図る。



・ モデルルームの様子



めあてを示し、それにもとづいた、評価をする。

黒板周りをすっきりさせる。

ランドセルの片付け方を写真で示す。

課題が終わった子のプリント等を用意しておく。

そうじの手順を絵で示す。



②教員の授業行動チェックシートについて

以下に示すのが、本校の教員から出た、わかりやすい授業のための25項目についてのチェックシートである。

泉大津市立戎小学校「授業のユニバーサルデザインモデル」 2014年度
どの児童もわかりやすい授業 —教員の授業行動25—

1. 授業ルール

- ①授業前に学習に必要なものを机の上に準備させる。 unnecessaryなものは片づけさせる。
- ②チャイム着席させる
- ③授業の始まり、終わりの挨拶をさせる。
- ④話をする人に身体を向けて聞く姿勢をとらせる。

2. 説明・指示

- ①子どもたちが静かになってから話す。
- ②指示をするときは子どもの手を止めてから話す。
- ③話の一文を短くする。
- ④教室の子どもたち全員に視線を向けて話す。
- ⑤指示した内容を子どもたちができたかを確認して次に移る。
- ⑥大切なところは2回言う、復唱させる。
- ⑦話しとともに視覚的支援をする。
- ⑧作業等の手本を示す。
- ⑨授業の目標を示す。
- ⑩授業のスケジュールを示す。
- ⑪授業中の課題・活動の時刻・時間を示す。

3. 授業構成

- ①1時間の授業に、「聞く・作業する・話しあうなど」、3つくらいの活動を入れる。

4. 板書

- ①板書計画をあらかじめ立てておく。
- ②授業のふりかえりができる板書をする。

5. 立ち位置

- ①子どもたちから見えやすい位置、子どもたちが見やすい位置に立つ
- ②子どもたちが板書を見やすい位置に立つ。
- ③話ししているときは一カ所に立って（動かないで）話す。

6. 評価

- ①机間指導をする。
- ②課題の合格ライン（どこまでできればOKか）を決める。
- ③良い意見・行動があれば、すぐにほめる。
- ④授業の最後に振り返り（シートに記入など）をさせる。

4、おわりに

平成26年度の研修を通して、今まで、各教員が独自に行っていた教室環境の工夫について、全員で共通理解を図ることができたのがよかった。今後は、戎小学校としての、共通した教室掲示を作っていくようにしたいと考えている。それにより、学年・クラスが変わっても、掲示物などは、大きな変化がなく、安心して過ごせる児童が増えると考えている。また、教師側も、学期はじめの作業が少なくなり、児童への指導に時間を割くことができるように思う。

授業行動についても、学年をはじめ、学校全体で気をつけているポイントについて話し合ったことで、ベテランの教員が、どんなことに気をつけて授業を行っているかなどがわかり、若手の教員にとっても、参考になることが多かった。今年度は、学校として、授業の“めあて”を示すということ意識して授業を行っている。今後は、毎時間、“めあて”に沿った“評価”を行うことを目標にしたいと考えている。

授業行動のチェックシートは、各教員が、自らの授業をふりかえる助けになると思う。また、研究授業などを見る際に、UD化がどの程度進んでいるかを見るためのポイントになるとも考えている。

今年度は、昨年度学んだ、教室環境や授業行動のUD化のふりかえりを行うとともに、学級経営についてのUD化についても研究を進めていく予定をしている。これにより、様々な児童が、より安心して学校生活を送ることができるようになればと思う。